

令和7年度文京区障害者地域自立支援協議会子ども支援専門部会主催研修会
教育と医療と福祉の顔が見える関係を深める～切れ目をつなぎ目に～ 次第

日時 令和7年8月5日(火)午後1時30分開始

会場 文京区民センター3階 会議室3A

1 開会（10分）

挨拶・趣旨説明

2 議題

(1) 地域資源の紹介（30分）

① 文京区児童相談課 大木係長（15分）

② 放課後等デイサービスの現状と課題

ハッピーテラス千駄木第二教室 塚本氏（15分） 【資料第1号】

(2) 事例検討（80分）

① 事例検討の説明（10分）

② 事例発表（20分）

③ グループワーク（50分）

休憩（10分）

(3) シェアリング・学識経験者の総括・質疑応答（40分）

3 閉会（10分）

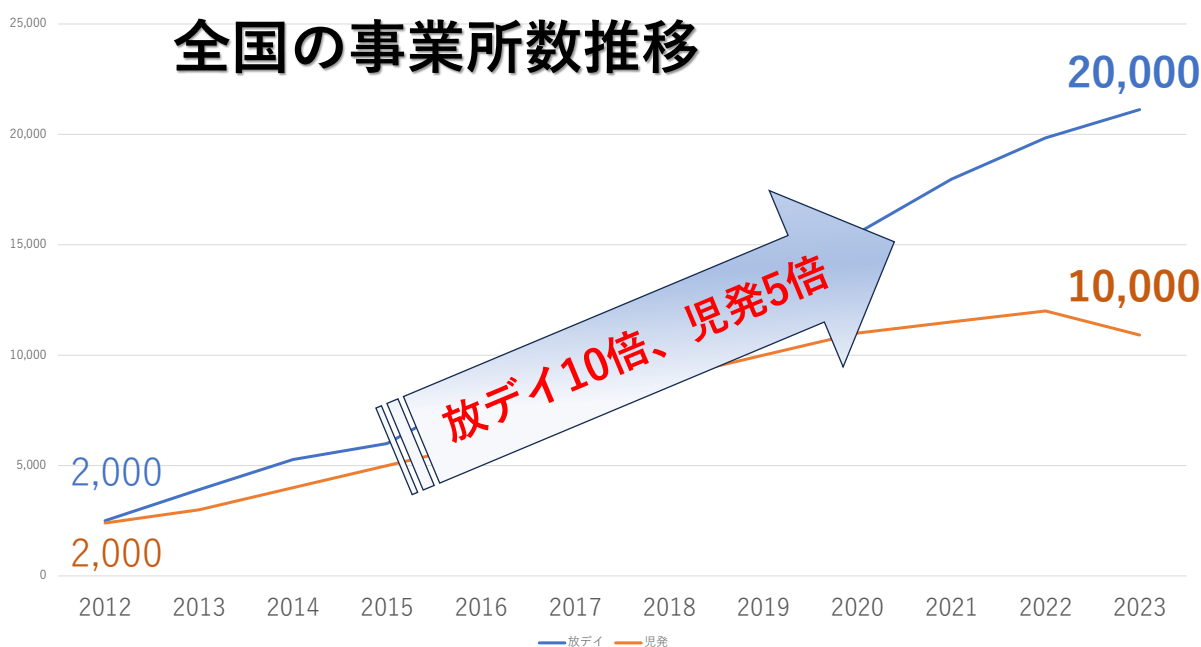
事務連絡、アンケート記入、クロージング

【資料第1号】

放課後等デイサービスの 現状と課題

ハッピーテラス千駄木第二教室
児童発達支援管理責任者 塚本了介

全国の事業所数推移



【資料第1号】

放デイ・児発 とは （児童福祉法）

- 放課後等デイサービス：就学している障害児（小中高）
- 児童発達支援事業所：未就学児
- 定員あり： 例 10名、20名
- 人員配置： 利用者10名：児童指導員（保育士） 2 名
- 加配： 加配加算、専門的支援体制加算 等
- 単価： 1回利用 7000円～15000円 児発は単価高め
- 利用負担： 1 割負担、世帯収入により上限額あり
児発は補助があり利用者の負担無し

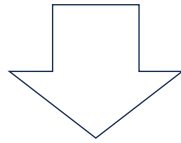
文京区の推移

データ名			R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	単位	ソース
①	児童発達支援事業所数		6	6	8	11	13	箇所	障害福祉のてびき
②	放課後等デイサービス事業所数		8	10	10	12	14	箇所	障害福祉のてびき
③	児童発達支援事業所の利用者数		236	247	275	327	342	人	ぶんきょうの社会福祉
④	受給者証発行数の推移	放デイ	382	431	466	518	586	人	障害福祉課システム
		児発	245	245	279	339	348	人	
⑤	支給日数の推移	放デイ	4,688	5,510	5,831	6,599	7,813	日	障害福祉課システム
		児発	3,094	3,231	3,906	4,703	4,698	日	

【資料第1号】

発行された支給日数から考えると放デイ・児発の施設は十分な数（受入れ人数）があると言えない？！ 支給日数 > 受入れ人数

「放デイ・児発 どこも満員、キャンセル待ち！」



しかしながら 各事業所が常に定員いっぱい運営されているか？ というところでもない。

利用者さん側から考える・・・

- 保護者が子どもに適した事業所を探せていない（めぐり合っていない）
- 計画相談されていない。セルフプランで保護者の焦りから適切な利用となっていない。過度の利用や、過小の利用
- 共働き等の家庭の事情で送迎が難しく利用できない
- 体調不良や来所拒否などで予定通りの利用がされていない

などなど

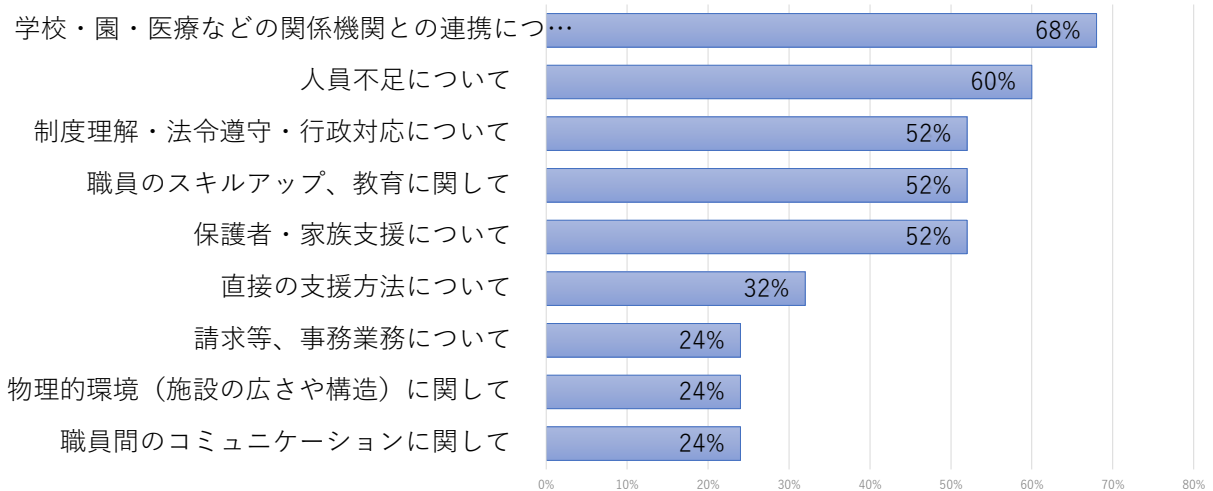
【資料第1号】

事業所側で考えると

- 年齢が長く使えるので 利用者が卒業しない（放デイ）
 - 利用者の対象年齢を設ける施設も
- 強度行動障害等により加配が必要な場合、受入れが慎重となる
- スタッフ不足により利用者を受け入れる事が困難。
 - 疲れたスタッフが離職・・・低い定着率
- スタッフの知識・経験不足
 - 小規模事業所は研修制度の確立が難しい
- 利用者のニーズにマッチしていない可能性
 - 事業所が増えてサービス形態や特色等は多様化したか、利用者主体のサービスとなっていない。事業所都合のサービス。

連携に関する 現状と課題 ミニアンケート（回答者25名 複数選択可）

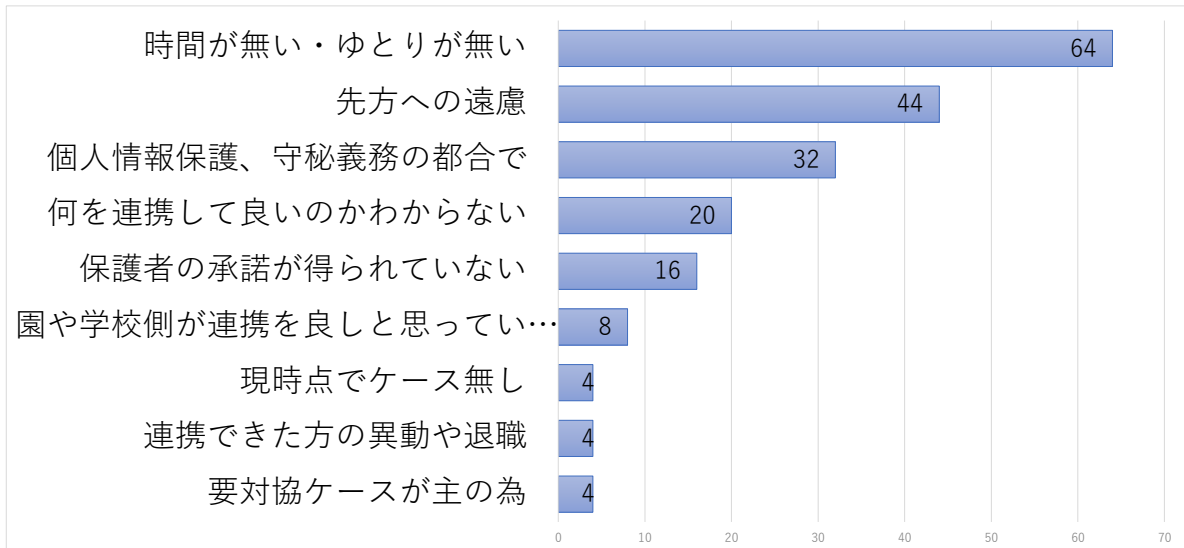
**日々の支援業務で課題に感じている事、
改善改革が必要と感じている事がありますか？（複数選択可）**



【資料第1号】

連携に関する 現状と課題 ミニアンケート（回答者25名 複数選択可）

連携したいがそれが滞る要因があるとしたら何ですか？



令和6年7月 ガイドラインの改定

新しく創設・変更された支援制度

1. 中核機能強化加算（新設）
2. 支援プログラムの作成・公表義務と未公表減算
3. 児童指導員等加配加算の見直し
4. 専門的支援加算の再構築（体制加算／実施加算に分離）
5. 延長支援加算の見直し
6. 関係機関連携加算の拡充
 1. 加算Ⅲ（児童相談所・医療機関との連携）
 2. 加算Ⅳ（就学先・就労先との調整）
7. 子育てサポート加算・家族支援加算の推進
8. 義務化事項 BCP,ガイドライン,感染症対策 などなど

【資料第1号】

まとめ1 運営的に

- 基本、人手不足 ⇒ 療育の質（一）、職員教育（一）
- にもかかわらず 行政から求められるものが多い
- DX 必須
- 1事業所でできることの限界を感じている。

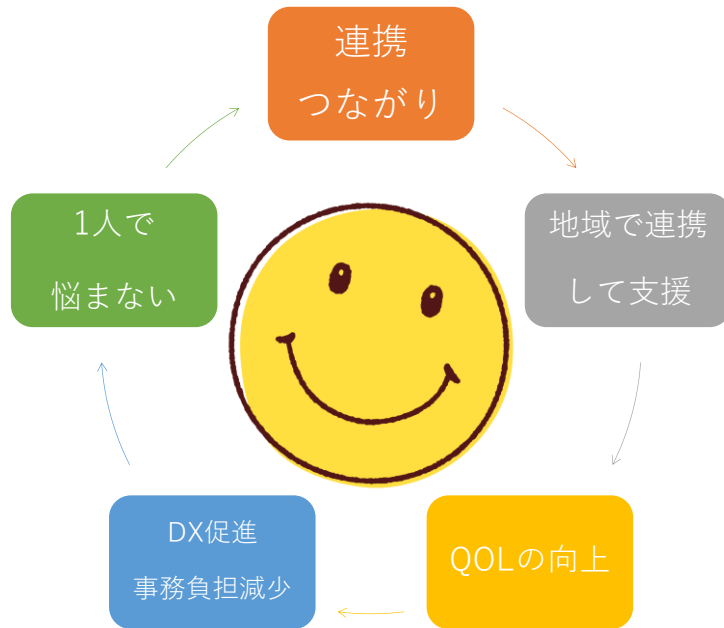
日々、模索しながら頑張っている

まとめ2 療育として

- 児童福祉事業所は人手不足。それでも現場は一生懸命取り組んできた
- 事業所数は充足したかもしれないが、その質は追いついていない
- 本人支援だけでは限界があり、家族支援、関係機関との連携の重要性の再認識している
- 福祉事業所は連携へのワンアクションを！

【資料第1号】

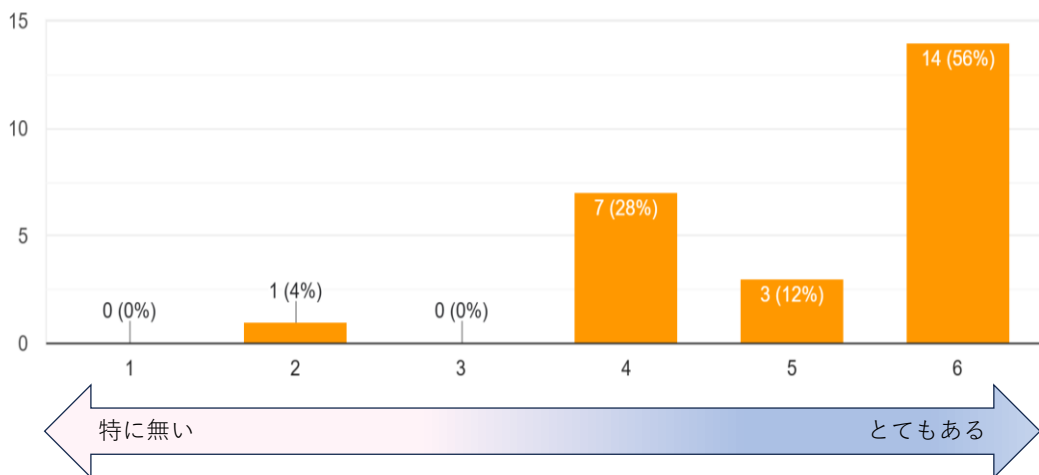
まとめ 2



幸せのメリーゴーランド

連携に関する 現状と課題 ミニアンケート

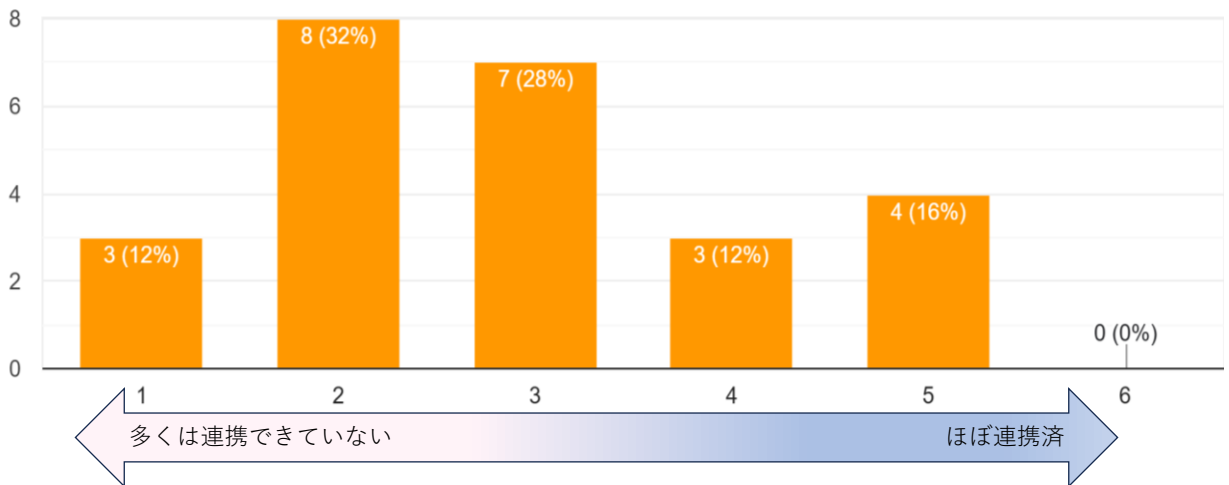
子どもが通う 学校・育成室・保育園・幼稚園・子ども園・児童発達支援・放課後等デイサービス・医療機関等 と情報共有や連携支援が必要であると 感じたことはありますか？



【資料第1号】

連携に関する 現状と課題 ミニアンケート

必要であるが未だ連携に至っていないケースはありますか？



連携に関する 現状と課題 ミニアンケート（回答者25名 複数選択可）

実際に連携に至ったきっかけは何でしたか？

